

## 長谷川輝紀教授 退職記念特集

## まだまだこれから！！長谷川先生

社会情報学部 稲積宏誠

「僕のことわかる？いつも守衛室のところにいるでしょ」と言って話しかけてきたのが最初だったでしょうか。私が1993年に世田谷キャンパスの理工学部に着任してしばらくしてからだったかな。当時、向ヶ丘遊園、たまに近場で成城学園の駅から走って通っていましたが、毎朝、守衛室でシャワー室の鍵を借り、リフレッシュしてから研究室に向かうという生活でした。そういえば、こんな人がいたかな…と思わせる風貌。それが長谷川先生だったと記憶しています。

それから15年経ちました。その間、何かにつけて好意的に接していただき、よくごちそうをしてもらいました。一度しか参加できませんでしたが、2月の蔵王、一緒にスキーをさせていただきました。また、いろいろな話を聞かせていただきました。あの風貌と言っては失礼ですが、ピアノが弾けて、フランス語が堪能、教養人なのですね。

トランポリンの先駆者。たまたま私が学生時代に体育の授業で半年間トランポリンをやりました。体育祭で団体銅メダル。偶然ですが驚きました。

とても自信をもっておられるボーリングの授業。先日それを受けたことのある人に聞くと、何番ピンだったか2本のピンを立てて独自練習。ところが練習後は、だれでも100以上のスコアは出せるようになっていたとのこと。さすが自信を持っているだけのことはあるのです。なんととっても、長谷川先生は万能プレーヤーですから。

でも、私が一番感謝しているのは、今回の社会情報学部設置に伴って、学部移籍に応じてくれたことです。定年までたった2年。なにも動く必要はありません。いろいろな憶測などから嫌な思いをする可能性もあったはずですが、ちょっと様相は変わってしまった面もありますが、相模原キャンパスにおけるスポーツの位置づけを考えることを社会情報学部発信でやりたかったこと。学部の性格上、個別専門に特化するのではなく、なるべくさまざまな分野の間で構成することが学部の力になると思ったこと。スポーツ推薦等、明示的にスポーツとの接点をもつ学部においてこそ存在意義があると思ったこと。小規模学部であるがゆえに、管理運営面でなるべく多くのマンパワーを確保したかったことなどが、お願いした主な理由でした。そのあたりの考えを、自然に昇華していただけたのでしょうか。その結果、社会情報学部退職第1号の栄誉？を受けることができたとも言えますが。。。

長谷川先生は、もろもろの背景から、お酒を飲み始めたのが30歳過ぎてからとのこと。20歳からスタートダッシュしてしまった私とは大違いです。一生での許容量というものがあるのなら、まだまだ前途洋々です。

学生を愛し、酒を愛し、周囲の多くの人たちを愛し、にんにくとプロポリスでいつも元気。もちろんスポーツを愛し、奥様を愛している、愛すべきスポーツマン、長谷川先生。これから第2の青春、良きスタートを切ってください。